



卓話



クラブフォーラム クラブ協議会報告

クラブ協議会の開催要領

日時：平成17年12月15日(木) 18:30～19:30
場所：明治記念館
テーマ：ロータリーと日本人の心
出席者(敬称略)
米山班：米山 武田 天野 太田 岩野 出井 藤原 廣本
鯉江班：鯉江 小林久 牛尾 小畑 ビクトリア 曾我
向山班：安田 浅野 渡邊 酒井 坂本 カイテル 向山
廣嶋班：廣嶋 関根 猿渡 落合 牧野 佐々 内藤 押川

米山班報告 廣本 慶一会員

米山会長の司会で、主題について各人の感じていること思いを出し合いました。

出された意見について、箇条書きにて報告いたします。

・とてもとらえにくいテーマである。また切り口も示されているが、この切り口でもなかなか議論しにくいので、切り口にとらわれずに各人が思っていることを話してみる。

・日本人の持っている気質というものは、ロータリーの精神に合っていると思う。活動をしていて特別なことをやっているという違和感がない。

・「奉仕」という言葉には抵抗があった。なにか特別なことをするようで。

・「奉仕」=「仁」 陰徳ではない。(仁=いつくしみ、思いやり。ちょっとむずかしいですが)

・H16.5 のガバナーディスカッションの中で「ロータリーが他の慈善団体と違うのは、職業奉仕という思いがあること」と言われた。

このことから職業奉仕に関連して意見が出された。

・職業奉仕と言われても難しく考えることはなく、自分の選んだ仕事うまくいって、利益を上げ納税をし、雇用の機会を創出し、他への仕事を与える。これで十分なのではないか。

・この仕事を選んだ、これはなにかの宿命、宿業であると感じる。

・色々な条件がたまたま合って、今この仕事をしている。そしてこの仕事を気に入っている。お客様も喜んでいただいている。そして自分としては報酬以上のことをしていると思っている。でも特別なことをしているのではなく、当たり前のこととして普通に行っている。

・奉仕という言葉に違和感がある。奉仕=高い位置から与えているというイメージ

・奉仕をするのではなく、させていただく心が大切。

・職業=奉仕というより生きていくため、お金がついてくる。職業奉仕という言葉に特に違和感がある。自分の今の仕事をやるのが大切。

・他者への思いやりをもって、自分の行動をする。それは日本人として当たり前のこと。

・利益をとる=悪というイメージがロータリーの中ではあった。ロータリーの中では商売の話をしてはいけない。と言われた。ロータリーの仲間から仕事をもらうことは、仲間への奉仕へつながるのではないか。

・ロータリーの活動を考えたとき、日本とアメリカでは求めるものが違うのではないか。

・仲間を理解しあう=お互いの役に立ちたい(仕事や趣味など)=お互いを助け合う。

・その人の倫理観がしっかりしていれば、仕事をし助け合うことはごく普通のこと。会社がしっかりしているから色々な活動ができる。

・職業奉仕とくることが難しい。

・職業奉仕というなにか特別なことをしなければならないと感じている。

・ロータリーの奉仕の心は、東洋的思想のほうがある。

・ロータリーの活動は普通の日本人の心から考えると特別なことではなく、普段していることではないか。

・ただ、ロータリーでは仲間と行動ができるので、ひとりではなかなかできないこともできる。

・奉仕をしたいということは、皆必ず思っていること

・ロータリーに入会してくる人は、当初からそれなりの思いが当然あり、そして会費を払って入会している。当然それなりの心構えがある人である。わけのわからない人たちの中から良い人を選んでいくのではないから付き合っていくことに間違いはない。そして人間関係が豊かになっていく。

・ロータリーの会員は、会費というラインをクリアしてきてい

るのだから悪い付き合いなどない、すべてが良縁である。そしてさらに啓蒙され、互いに高めあっている。

・ロータリーに入会するというはその業界を代表しているということ。その業界に対する影響力もある。会員同士の交流も大切だが、その思いを自分の会社や業界にも伝えて欲しい。

・自分の業界に戻ったときにその心を伝えなければとは思いますが、まだそういう志を持った人、理解してくれる人が少ない。

・ロータリーでは業界の立場を超えてみな平等。自分の会社では社員に任せる雑用も自分たちでやっている。みな他に役立つことを考えて行動している。

上記のように、終始、和やかな雰囲気のもとで意見が出され、最後に米山会長・岩野会員が壇上にて発表し、散会となった

以下は個人的なまとめ。(議事録とは別です)

・日本人の心、東洋的思想はロータリーの奉仕の心にあっている

・そしてその活動は特別なことをしようというのではなく、当たり前前々のことを行っているというイメージ

・職業奉仕を特別なこととしてとらえる必要はなく、自分の選んだ仕事、自分の与えられたことをきちんとやるのが大切

・ロータリーの会員は、それぞれ志をもって入会している。その付き合いはお互いを高めることになる。

・そしてロータリーの会員は常に他を思い、行動をしている。さらに自分の感想(なんとなく書いてみました)

ロータリーの活動を難しく考えていましたが、特に難しいことをするのはなく、自分の良心にそって普通に活動すれば良いのだと思います。相手や周りを思いやる気持ち(これが日本人の心なのかどうかはわかりませんが)は自分では普通に持っていると思っているので、この気持ちで仕事にロータリーの活動に励みたいと感じました。

でもフォーラムで求めている「日本人の心」ってなんなんでしょうかって考えたとき、あの切り口で考えると「自分中心VS周りを思いやる心とか「今の若者の考え方VS自分の世代(まだ古風だと思います)VSさらに上の世代」の考え方の違いかなどと、今朝になって改めて考えています。

鯉江班報告 曾我 祐二郎会員

1. 個と集団について

大阪国際大会等を例にすると日本人は団体行動(グループ行動)が多く外人は個人行動が中心である。日本は趣味の会が多く、親睦を重んずるが、外国は趣味の会はそれほど多くない。

2. 次世代との交流

会員は例会が世代交流の場になっているのか、他の同世代の人よりは若者の意見に耳を傾けると思う。いずれ日本も欧米並みに世代交流が進むだろうし、農耕民族から狩猟民族に近くなるのではないかな。

3. 都会と地方

地方のほうが都会よりロータリーのステータスが高く新会員が入りやすいのではないかな。ビクトリアさん曰く、アメリカは逆に都市の方が高い。

4. 老と若

当クラブは30歳代から90歳まで各世代ごとに会員がおり新入会員が入りやすいのではないかな。

世代間のコミュニケーションがうまく取れない場合もある。

アメリカでは、世代間のギャップも少なくフランクな交流がある。

5. 日本人と感ずるところ

四季があったり、日本の伝統に触れた時、特にお茶会等に参加した時日本を感じる。

みなさんとの繋がりやの和を大事にする時。

向山班報告 向山 功会員

テーマと各論を念頭に置き、各自自由に発言をお願いした。

1. 日本人には、社会のために働く自発的なボランティアの気持ちや行動が少ないが、RCの活動はそれが中心。

2. 同集団で群れやすいが、RCは職業、年齢、性別を超越している。

3. アメリカ等は、奉仕の意識が前面で人助けの意思が強いが日本は親睦機能を重視し仲間や内向きの行動、作用が強い。

4. 各自の入会動機はクラブの奉仕活動の実態を把握してからではなく、友人に勧められたことによることが多い。入会后、時間をかけて理解と本人の心が奉仕に向いていく。

5. 週に一回の例会が仕事のリズムと見識、考えるヒント、世界観を広げる役目になっている。

6. RCは新しいビジョンを提示して、社会、世界に夢を与える仕事がある。どんな世界にするのか考え実行しどんな人にもアピールの力のある感動を与えるような仕事をする。

7. 世界のひとと差別なく、性別、年齢、民族、国境、地域を越えて心をつないでいきたいと願うが、日本人のこころを育てていない現状がある。

昔は、武士道の精神、礼節等の教えを尊び学んだが、今は、野放図に自由(責任を伴えない)のみ。

廣嶋班報告 関根 修会員

各会員の意見を聞くことから始まる。

・職業を通じて奉仕活動をする集団と理解している。

・職業に対してのモラルの向上が活動の中心にすえている。

・奉仕活動に対する資金の使い方のバランスが悪いのではないかな。

・各クラブが資金を大量に使い、奉仕活動しているわりにはロータリーの認知度に問題があると思う。

・ロータリーは、異業種の仲間の集まりであるため親睦が重要であり、その上で奉仕活動があると思う。そのために、

クラブが保守性を尊び、それがステータスとなり差別化になっている。

- ・歴史が長いので規約が厳しくなり、単年度のため結果が見えない。
- ・寄付に関しても疑問があり、使途を明確にすべきである。

このような点がロータリークラブの特色ではないかと結論となりました。

今後のロータリークラブとしては地域に密着した活動を重点的に行い、継続性を重要視し、奉仕活動に対する目的意識を明確にする必要があると思います。